事例No.	2349
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	能登島地域づくり協議会

事例区分	地域活性化

タグ	・地域運営組織 ・歳入確保 ・観光

事例種類	地域運営組織

事例内容・タイトル

地域運営組織の持続的な運営に向けた
取組（能登島地域づくり協議会）

出典

地域運営組織の持続的な運営に向けた取組事例集

能登島（のとじま）地域づくり協議会 ①

03

【概要】

立地自治体		石川県七尾市	人口規模		約2,500人
設立年度		平成20年度	活動エリア		小学校区と概ね一致する
構成団体	構成団体	自治会・町内会 地域活動団体 事業者 教育・福祉	法人格の有無		無
			体制		役員とは別の事務局体制を確保
			詳細	役員	13名（うち非常勤・有償1名、非常勤・無償12名）
	協力団体	事業者　行政		役員以外	7名（うち常勤・有償4名、非常勤・有償3名）
			ホームページなど		https://notojima-chiiki.com/

【具体的な活動内容】

【高齢者等の生活支援】

- 弁当配達・給配食サービスとして、月に1回、有償ボランティアにより、集会所で出張コミュニティカフェを実施している。
- 買い物支援・移動販売として、地域運営組織が販売事業者と協定を締結し、島内の高齢者のニーズを踏まえたルートを伝えて、販売事業者が移動販売を実施している。当初は実証実験として実施していたが、地域運営組織が引き継いで継続している。





【子ども支援・子育て支援】

- 月に2，3回の頻度で、地域の小学生を主な対象として、コミュニティセンターでものづくりや地域の文化を学べる体験教室「島っ子クラブ」を実施している。令和4年度には、ずんだ餅体験、スラックライン体験など、毎回十数人程度が参加するイベントを実施している。
- 幼保園・小学校と連携して「能登島こども会議」や学習田での田植・稲刈体験などを実施し、こどもが地域を知る機会を提供している。





出典：能登島地域づくり協議会 資料

能登島（のとじま）地域づくり協議会 ②

03

【自主事業の実施による収入確保に向けた取組事例】

取り組み	のと島クラシカタ研究所の設立を通じたコミュニティビジネスの実施
経緯・狙い	• 地域運営組織としての安定した基盤づくりの観点から、行政に頼らない自主財源の確保に取り組んでおり、コミュニティビジネスに積極的に取り組んでいた。 • 令和元年6月には、コミュニティビジネスを担う部分について、実働部隊として責任と意思決定を明確化してスムーズに事業を進めるため、一般社団法人「のと島クラシカタ研究所」を新たに設立し、主に物販や観光をはじめとする事業の企画・運営を行うこととなった。
取組の概要	• 生活や文化、自然などが楽しめるコンテンツがなく、島外からの来訪者の訪問先は水族館や温泉が中心となっていたが、子供向けのキャンプなどのプログラムを提供するなど、島の魅力を伝える活動を実施することとした。 • 地域限定の旅行業免許を取得し、島の漁業を体験する勉強型のプログラム（魚道）や、ゴルフ客を対象とした島内のゴルフ場・民宿のセットプランの販売を行った。 • コメを中心とした島内の産品を「まあそいブランド（まあそい＝豊かな、良く稔った）」として統一ブランド化し、販売するとともに、お土産の商品開発にも取り組んだ（まあそいおみやげ）。   出典：能登島地域づくり協議会 資料
成果	• 物販の年間売上が約200万円となり、今後のコミュニティビジネスの活動資金を確保できるようになった。 • 着地型の体験プログラムを販売した結果、島内の事業者へ利益を還元して、地域経済に貢献できるようになった。 • 活動を通じた地域の事業者との新たな連携より、地域運営組織の新たな活動の幅が広がった。
今後取組みたいこと	• 公共交通機関の縮小に備えて、効率的かつ利便性の高い形で「地域の足」を確保するデマンド交通の実証実験や、運用方法やコスト、島民のニーズ調査などを進めている。 • 耕作放棄地の発生が重大な地域課題となっていることから、解決に向けた取組を検討していく。 • 移住体験住宅とセットで耕作放棄地を借り上げ、農業を教える体制を構築して、農業に関心を持つ移住希望者に対して、魅力的な移住促進プログラムを提供することを検討している。